

平成 22 年 4 月 30 日現在

研究種目：若手研究（B）  
 研究期間：2007～2009  
 課題番号：19730345  
 研究課題名（和文） 「ドキュメンタリー・リテラシー・プログラム」開発と  
 コミュニケーション・ツール構築  
 研究課題名（英文） Development of “Documentaries Literacy Program” and Designing of  
 a Tool for Communication  
 研究代表者  
 崔 銀姫 (CHOI Eunheui)  
 佛敎大学・社会学部・准教授  
 研究者番号：30364277

## 研究成果の概要（和文）：

ドキュメンタリーを用いたメディアリテラシーと映像文化にかかわる実践的考察：本研究は、体系的かつ具体的なメディアリテラシープログラム(ドキュメンタリーチャンネル：<http://d-ch.tv>)の開発を通して、ドキュメンタリーにおける文化的なイメージの解釈と実践的なオルタナティブ・メディアの可能性と空間の創出を試みたものである。

## 研究成果の概要（英文）：

Practical Study about Media Literacy and Visual Culture through Documentaries : This project aims critical reading of stereotyped representation of mass media, constructing alternative networks of communication through the discussion on the outcomes and problems of the project by introducing “Documentary literacy development program project: documentary channel(<http://d-ch.tv>)” which started as a design of practice research to recover the diversity of space of documentary, and get a clue for alternative representation and prospects in the age of globalization in the 21st century.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	2,000,000	0	2,000,000
2008年度	700,000	210,000	910,000
2009年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	390,000	3,690,000

研究分野：社会情報学（メディア論）

科研費の分科・細目：社会科学・社会学

キーワード：メディア、ドキュメンタリー、メディアリテラシー、映像（イメージ）、映像文化、コミュニケーション、オルタナティブ、空間

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 「ドキュメンタリー」を中心とする映

像の文化コードを再解釈する必要性：情報

社会の拡大や、テクノロジーの進歩、メディアの融合と多様化などの社会的な変化のなかで、ドキュメンタリーの文化コードの解釈のためには新たな理論的研究方法が求められていた。

**(2) 「ドキュメンタリー」を体験的な実践から再検討する必要性：**近年「ドキュメンタリー」は歴史・文化的なメディア研究領域だけではなく、メディアリテラシー学習の素材としてよく使われているが、まだ整備できていない所が多く、教育・実習の現場では困難があるのも実状である。現在、「ドキュメンタリー」を体系的かつ具体的に「実践する」ためのプログラムのデザインとツールの構築が必要だと考えた。

## 2. 研究の目的

- (1) 「ドキュメンタリー」の映像文化の再検討
- (2) 体系的かつ具体的な「メディアリテラシー」プログラムの構築
- (3) メディア・テクノロジーの拡大的かつ応用的な活用
- (4) オルタナティブなメディアとしての情報発信や情報提供、情報の蓄積
- (5) コミュニケーションとしてのドキュメンタリー空間の創出
- (6) 「ドキュメンタリー」のイメージの文化的な意味と解釈にかかわる実践と理論の接合を整理

## 3. 研究の方法

**【平成19年度】：**「ドキュメンタリー・リテラシー・プログラム」の開発・補完とコミュニケーション場の構築

- (1) 「ドキュメンタリー・リテラシー・プログラム」の開発
- (2) ドキュメンタリーチャンネルの構築：  
(URL:<http://d-ch.tv>)
- (3) 国内・外における実践参加コミュニティとの連携と拡大

**【平成20年度】：**「ドキュメンタリーチャンネル」を用いた実践とオルタナティブ・コミュニケーション拡大

- (1) 「ドキュメンタリーチャンネル」の持続：
- (2) インターネット上でのドキュメンタリー交換・共有の拡大：ワークショップ実施

**【平成 21 年度】：**「ドキュメンタリーの理論と実践」の総括と報告書執筆：実践の成果発表と実践の検証を持続する。要するに、オルタナティブ・メディア・コミュニティであるドキュメンタリーチャンネル (URL:<http://d-ch.tv>) は、既存とは異なるコミュニケーションとしてのドキュメンタリー空間を目指す。広い意味での循環的なコミュニケーションのツールとしての空間の構築を創出する今回の実践の成果を評価する。

## 4. 研究成果

(1) 研究の主な成果：

- ①メディア研究における「ドキュメンタリー」の社会的・文化的な意味を再解釈を提案した。
- ②メディアリテラシープログラムをデザインすることでドキュメンタリーを用いた実践的かつ体験的な学びが実現・そのプログラムとモデルを提示できた (図1と図2を参照)。
- ③受け手の映像解釈と映像文化コードの解釈のために学際的な研究方法の新たな試みを提示した。
- ④変貌するデジタル・メディア時代に相応しい映像文化研究の重要性を覚醒させるとともに新たな研究方法を試みた。

図 1. メディア実践およびメディアリテラシーワークショップの参加と満足の結果

- 40% 非常に役に立った  
51% まあまあやくにたった

8% あまり役に立たなかった  
1% 全然役に立たなかった

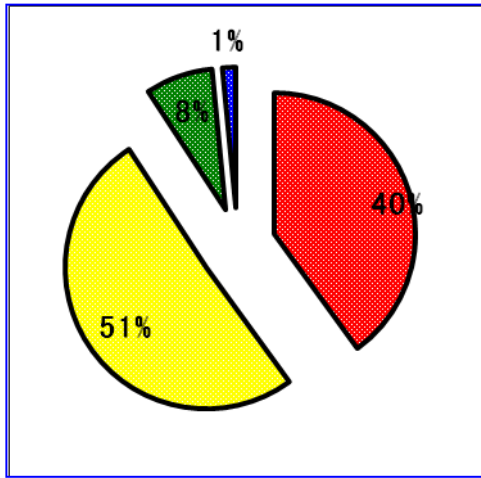
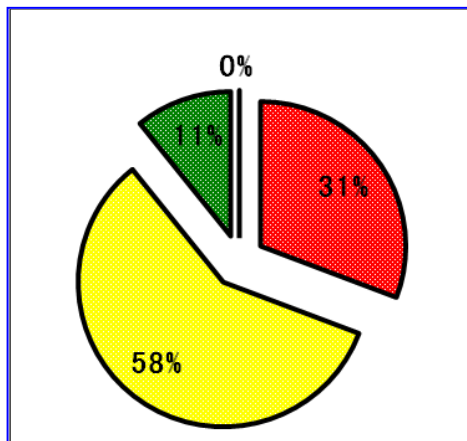


図 2. メディア実践およびメディアリテラシーワークショップの参加後の感想 (=教育現場における実現可能性)



31%非常に面白かった  
58%まあまあ面白かった  
11%あまり面白くなかった  
0% ぜんぜん面白くなかった

(2) 得られた成果の国内外の位置づけとインパクト：下記の理由から従来の研究に加えて一つの重要な考察として位置づけできると思われる。①日本国内では未開拓の課題の多いドキュメンタリー研究に持続的に取り組み、実践的な研究モデルとしてひとつの提案ができたこと。

②テレビドキュメンタリーから日本と韓国  
の映像文化比較ができたこと。

③メディアの歴史のなかでドキュメンタリー  
の変貌を社会的・文化的に捉えていること。

④ドキュメンタリーを媒介としたオルタナ  
ティブなメディアの構築を試みたこと。

(3) 今後の展望：①今回の研究で構築でき  
た現在運営中のサイトを持続的に活用しな  
がら、教育的・社会的・文化的な意義を検  
討し続ける。②階層や、年齢、性別等を問  
わず実践的な活動を広げていくことが重要  
な課題である。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に  
は下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

① 崔銀姫、公共の記憶とジャーナリズムの  
形骸化～戦時性暴力にかかわるドキュメ  
ンタリーをめぐって～、佛教大学社会学  
部論集、査読有、第 48 号、2009 年、19-33  
頁。

② 崔銀姫、表象の生産と消費におけるステ  
レオタイプの構造的な問題にかかわる実  
践研究～ドキュメンタリーリテラシープ  
ログラム開発プロジェクトの事例から～、  
佛教大学社会学部論集、査読有、第 46 号、  
2008 年、41-59 頁。

③ 崔銀姫、「他者としてのアイヌ」～ドキュ  
メンタリーにおけるアイヌの表象にかか  
わる小考察～、佛教大学社会学部論集、  
査読有、第 45 号、2007 年、19-36 頁。

[学会発表] (計 5 件)

① 崔銀姫、表象文化と「他者」の問題をめぐ  
って、カルチュラルタイプーン 2007、2007  
年 6 月、名古屋。

② 崔銀姫、Representations of the Ainu as  
“others” on local TV documentaries and  
“documentary channel”

(<http://d-ch.tv>)、Ubiquitous Media: Asia

Transformations (国際メディア社会文化シンポジウム)、2007年7月、東京大学。

③崔銀姫、実践する「文化の環」～ドキュメンタリーチャンネルを用いたメディア・ワークショップを中心に～、メルプラッツ、2007年12月、京都。

④崔銀姫、“The Wave of Exchange between American and Japanese students; TIK (This Is Kyoto!)”、PACIFIC & ASIAN COMMUNICATION ASSOCIATION、2009年1月、マレーシア。

⑤崔銀姫、Alternative Media Practice、MellPlatz EXPO2010、2010年3月、東京大学。

〔関連図書〕(計1件)

①崔銀姫、水越伸・東京大学情報学環メルプロジェクト編、「メディアリテラシー・ワークショップ」東京大学出版会、2010年3月、2部コラム頁担当。

〔その他〕

ホームページ等

ドキュメンタリーチャンネル  
(URL:<http://d-ch.tv>)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

崔 銀姫 (Eunheui CHOI)

佛教大学・社会学部・准教授

研究者番号：30364277